

児童の ICT 端末に関する操作技能一覧の作成 と授業実践データの共有

C:職員間の情報共有

このような教員の姿が生まれました!

- ICT 端末の操作技能について、何をどこまで教えればよいかの迷いがなくなり、「タブレット操作技能一覧」を基に、計画的に教えられるようになりました。
- 授業実践データを参考にして、よりよい ICT の活用を目指す意欲的な姿が増えました。

発達の段階を踏まえた「タブレット操作技能一覧表」の作成

ICT 端末の操作について、児童に「何を」

「どこまで」教えればよいのかを明確にする。

- ・ 児童が授業の中で ICT 端末を活用するために、発達の段階を踏まえてどんな操作技能を身に付けられればよいのかを「タブレット操作技能一覧」にて明らかにした。その結果、操作技能についての指導内容が明確になり、指導に役立たせることができた。
- ・ 身に付けた操作技能を、授業のどの場面で活用しようかといった視点で考えられるようになった。
- ・ 操作技能を発達段階に分けて一覧にしたため、見通しや計画が立てやすく、引継ぎ等にも役立った。

ロイロノート以外の操作技能		ロイロノートにおける操作技能	
習得したい操作技能	学年	習得したい操作技能	学年
タブレットの電源を切る・点検する。電源が落ちた際、再起動の方法を説明し、対応ができる。	1・2年	授業で使用するノートを新規作成することができる。	1・2年
ホームボタンを押す。	1・2年	作成済みのノートを開くことができる。	1・2年
自分のパスコードを入力することができる。	1・2年	授業を続けることができる。	1・2年
画面をスライドして使用したいアプリを見つけることができる。	1・2年	開いた画面を閉じることができる。	1・2年
自分が使用したいアプリを開くことができる。	1・2年	ビデオを続けることができる。	1・2年
授業を続けることができる。	1・2年	開いたビデオを閉じることができる。	1・2年
ビデオを続けることができる。	1・2年	開いたビデオを閉じることができる。	1・2年
開いた授業用ビデオを授業用タブの下部から隠ることができる。	1・2年	開いたビデオの音声を消すことができる。	1・2年
開いている授業用ビデオを閉じることができる。	1・2年	開いたビデオの音声を消すことができる。	1・2年
授業された授業用ビデオを削除することができる。	1・2年	テキストに入力した文字を削除することができる。	1・2年
授業された授業用ビデオを削除することができる。	5・6年	テキストで入力した文字の大きさを調整することができる。	1・2年
タブレットの電源を切る・点検する。	5・6年	テキストに挿入した文字の位置を調整することができる。	1・2年
タブレットの電源を切る・点検する。	5・6年	テキストに挿入した文字の位置を調整することができる。	1・2年

「タブレット操作技能一覧」の作成のポイント

- ICT 端末に加え、授業で活用する主な協働学習支援ツール（ロイロノート）の操作技能についても一覧にまとめて、より授業で活用しやすくする。
- 低、中、高学年ごとに分けて操作技能を一覧にすることで、2年間の見通しを立てて指導することができるようにする。

ICT を活用した授業実践を記録し、蓄える



日常の授業実践をデータとして蓄えることで、

ICT を活用した授業への心理的障壁が低くなる。

- ・ 日常の授業実践をデータとして蓄積することで、授業の中で ICT を活用する際、どのような活用方法があるのか、どのような活用が児童にとって有効であるかを考えるためのヒントになった。
- ・ 日常の授業実践の蓄積を、校内の職員の誰もがすぐに関覧できるように学校のサーバーに保存した。これにより、授業づくりの参考にするだけでなく、その実践事例を児童の実態に合わせて活動を工夫したり、他の場面で生かすことはできないかを考えたりする教員が増え、ICT を活用した授業に対して積極的になった。

授業実践の記録のポイント

- ICT を活用した授業実践を、学年・教科ごとにデータとして蓄積する。授業づくりにおいて、いつでも参考にできるように学校のサーバーを活用し、すぐに関覧できるようにする。
- 学年、教科ごとに保存することで、必要な情報をすぐに関覧することができるようにする。授業実践の記録において ICT を活用することの意図を明確にしておくことで、閲覧した教員が自分の授業に取り入れやすくする。